

今回の内容：①会議情報、②ワンポイント・アドバイス

会議情報

最近の、消費者安全調査委員会での議論についてお知らせします。

第26回消費者安全調査委員会（平成26年11月21日）

- ハンドル形電動車椅子を使用中の事故
「ハンドル形電動車椅子」をテーマとして調査・分析を行うことを決めました。
電動車椅子は、高齢者を中心に移手段として広く利用されています。安全対策の実施により事故の件数は減少していますが、引き続き、死亡・重傷事故が起っています。委員会として事故の再発防止のため、高齢者が利用するものという視点も考えながら、更にはできることはないかという観点で調査を行うこととしました。
- 家庭用ヒートポンプ給湯機の事案
報告書案について、担当専門委員と事務局から説明を受けました。最終的な詰め議論をしっかりと行いつつ、できる限り速やかに公表したいと思います。
- 子どもによる医薬品誤飲事故の経過報告書素案について、事務局から説明を受けました。エスカレーター事故の部会での審議状況について、専門委員と事務局から説明を受けました。
- 一般の方からいただいた「申出」事案
事務局から、類似事例、制度等の関連情報や専門委員の見解などの情報収集の結果が報告され、その内容に基づき調査委員会で検討した結果、そのうち3件については調査を行わないことになりました。残りの案件（37件）については、引き続き、臨時委員、専門委員等の知見も活用しながら、事務局で丁寧に情報収集を行った上で調査委員会において判断していくこととなります。

部会の動き

- 工学等事故調査部会（11月上旬に開催）
 - ・家庭用ヒートポンプ給湯機の事案：報告書案について、担当専門委員や事務局から説明を受け、取りまとめの議論を行いました。
 - ・エスカレーター事故：報告書素案について専門委員や事務局から報告を受け、利用者のハンドレールへの接触予防対策や、側面からの転落防止対策などを中心に議論を行いました。
- 食品・化学・医学等事故調査部会（11月中旬に開催）
 - ・子どもによる医薬品誤飲事故：経過報告書素案について、事務局から説明がありました。医薬品誤飲に対する保護者の意識や事故発生時の対応方法、事故発生の背景要因について議論がなされ、再発防止策など取りまとめに向けて引き続き作業を行うこととなりました。
 - ・染毛による皮膚障害：調査計画について事務局から説明がありました。調査計画に基づき調査を進めることとなりました。

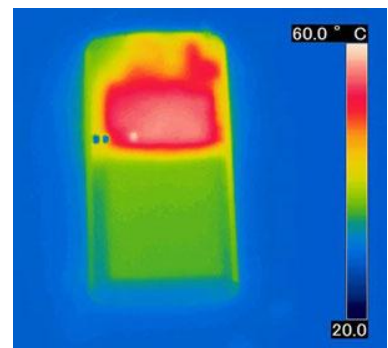
スマートフォンによる低温やけどに注意

スマートフォンが「使用中、本体が熱くなり、フリーズしてしまう」「バッテリーが熱くなってしまう」などの事故情報が寄せられており、なかには、その発熱で顔や手指にやけどしたという事故がみられます。

最近のスマートフォンはゲームアプリやテレビ電話を使うことで内部回路に負荷がかかって過熱すると、使用中のアプリが強制終了するようになっていますが、その際のスマートフォンの表面温度は最大で約60℃程度にもなることがあります。

肌と触れる部分の表面温度が44℃程度の心地よいと感じられる温度でも、数時間連続して皮膚に触れると低温やけどになる場合があります。低温やけどは、外観上は皮膚が赤くなる、小さな水ぶくれができる程度であっても、やけどが皮膚の深部まで達しており、治療に数カ月かかることもあります。

また、44℃ならば400分程度で、50℃ならば5～6分程度で、Ⅱ度のやけど（水ぶくれ、びらん、潰瘍）になるといわれています。



発熱したスマートフォンをサーモグラフィにより温度測定した例

★アドバイス！

- ・触れる部分の温度が50℃程度の場合でも、数分間でやけどに至ることもあります。また熱いと感じていなくても長時間触れることによって低温やけどに至る場合もあります。
- ・スマートフォンが熱いと感じたときは十分に温度が下がるまで使用を控えましょう。
- ・スマートフォンを使う場合や充電する場合は、やけど防止のため、長時間直接肌に触れたり、ポケットに入れたりするなど肌の近くに長時間密着させないようにしましょう。
- ・誤操作による過熱を防止するため、収納時にロック機能をかけましょう。

(参考)

独立行政法人国民生活センター

「スマートフォンの充電端子の焼損や本体の発熱に注意—なかにはやけどを負った事例も—」

http://www.kokusen.go.jp/test/data/s_test/n-20140220_1.html

(注) この参考情報は申出事案に関連した一般的な情報であり、申出内容に対する調査結果や回答ではありません。